

胃がんに対するロボット支援下手術

胃がんの手術では、2/3以上の胃切除と取り残しのない確実なリンパ節の郭清が求められます。しかし、胃周囲のリンパ節は肝動脈や脾動脈など背側に位置するため直線的なアプローチが困難で、特に直線的な鉗子の動きが中心の腹腔鏡手術では操作性が困難なため手術の難易度が高いとされています。

また胃周囲のリンパ節は非常に脆く出血し易い上に、膵臓周囲の脂肪に埋もれていることも多く、膵臓と脂肪との見分けがつきにくく膵液漏（膵臓が傷ついて膵液が漏れる）が生じ、さらには膵液により出血や腹膜炎を引き起こすことが課題でもあります。

これらの課題を克服できると期待されているのが、ダ・ヴィンチによるロボット支援下手術です。ダ・ヴィンチは7つの関節を持ち、人間の手の関節を超えた自由度があるため、腹腔鏡では困難であった部位にも容易にアプローチできます。あらゆる方向から組織を持つ、切るなどの動作ができるためリンパ節郭清を容易に行うことができるのです。加えて縫合（針糸で縫う）や結紮（糸で縛る）など複雑な動作も容易に可能であり、胃の再建（胃と腸をつなぎ合わせる）にも有用です。

またロボット支援下手術では、内視鏡で得た画像を拡大して三次元（3D）モニター内にお腹の中の微細な組織が鮮明に映し出されるので、見分けがつきにくい膵臓と脂肪の境界が視やすく、膵臓を傷つけるリスクを減らすことが期待されます。

さらにダ・ヴィンチにはコンピュータ制御により術者の手ぶれを排除する、術者の手元を大きく動かしても体内では小さな動きに変換されるなど腹腔鏡手術にはない優れた機能も備わっており、よりクオリティーの高い外科治療が実現可能です。実際にこのようなダ・ヴィンチのメリットを裏付けるように、「膵液漏が減少した」などロボット支援下手術の有用性を報告した論文もみられます。

当センターでは所定の知識と手技を習得し認定を受けた外科医が、2017年11月から胃がんの患者さんを対象にロボット支援下手術を開始しています。

ロボット支援下手術については、いつでもご相談に応じておりますのでお気軽にお問い合わせください。（担当医；高、向川）